

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 1 日現在

機関番号：32620

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22530759

研究課題名(和文) 学校における自閉症スペクトラムのアセスメントと教員研修における活用法の考案

研究課題名(英文) A design of the assessment of Autism spectrum in school and a practical use with the assessment for a training of teachers' occupational abilities.

研究代表者

田中 純夫(TANAKA, SUMIO)

順天堂大学・スポーツ健康科学部・准教授

研究者番号：90286170

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円、(間接経費) 960,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、自閉症スペクトラムに関連する要因を明らかにした上で、学校現場におけるより有効なアセスメント方法を提示し、教員研修においてその活用法を提案することを目的とした。まず、大学生に対して自閉症スペクトラム指数(AQ)とその関連要因についての質問紙調査を実施した。次に子どもたちの適応支援施設において、教員の評定による子どもたちの発達についての2種類のアセスメント方法(行動特徴チェックリストとAQ)を提示した。このアセスメント方法を教員研修に活用することで、その結果、教員の自閉傾向を有する子どもたちの行動傾向や心理を理解することが有効であることが示された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to clear the related factors of autism spectrum disorder, and to propose a practical use of effective assessment method in teachers training of occupational abilities. At first, in this study, the questionnaire investigation composed by Autism spectrum Quotient (AQ) and its related factors was administered for university students. The other, this study suggested 2 kinds of assessment methods (behavior check list and AQ) about child development by teacher in a support center of adjustment for school for children. A practical use of these assessment methods reed the results that teacher could understand more further about the behavior and mental states of children with autism spectrum.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：臨床心理学・心理的介入

キーワード：自閉症スペクトラム 発達のスクリーニング 発達障害の二次障害 教員研修

1. 研究開始当初の背景

微細な脳機能上の問題に起因する多動性障害や自閉症スペクトラム障害を中心とする「軽度発達障害」について強い関心が向けられている。これらの障害の基底にある「発達の遅れ」について、特有の認知や行動傾向から詳細に把握し、また脳科学・神経科学による状態解明を基礎として、治療的かつ教育的な介入方法や教育技法の開発と、さらにそれを支える場としての医療や学校教育現場におけるシステム構築が急務となっている。とりわけ教育現場では通常学級における特別支援体制の整備が強く求められているが、現実には、児童生徒の実態を明確に把握することは困難であり、具体的な教育技法を普通教育に導入して位置づけることも難しい状況にある。

2. 研究の目的

本研究では、教員が自閉症スペクトラムを適正に見立てるために、教員研修において、自閉症スペクトラムについての医学的臨床心理学的な捉え方を提示した上で、教育現場におけるより有効なアセスメント法を提案することが目的である。そのために、具体的にはまず始めに、自閉症スペクトラム障害の認知や行動特徴を明らかにするために青年期の特徴を端的に持っていると考えられる大学生を対象として自閉症スペクトラム指数(AQ; Autism-Spectrum Quotient)とその関連要因(主観的健康感、抑うつ、強迫性格、衝動性、関係性攻撃、レジリエンス)について検討する。次に、市教育委員会が運営する適応支援施設において、教員の評価による児童生徒のスクリーニングを実施する。以上の調査や実践から得られた知見を活用してそのスクリーニングとアセスメント方法を用いて事例研究等を組み、教員やスクールカウンセラーに対する効果的な研修スタイルを提案する。

3. 研究の方法

(1) 大学生におけるアセスメントの有効性を確認するための質問紙調査

調査対象は首都圏の大学に在学する1年～4生計403人(男子253人、女子150人)であった。質問紙で使用した尺度は、自閉症スペクトラム指数(AQ)、精神健康調査票(GHQ-30)、抑うつ尺度(SDS)、強迫性格尺度(OPTS)であった。

(2) 市教育委員会が運営する適応支援施設におけるアセスメントの実践

児童生徒を見立てるために、教師による児童生徒の自閉症スペクトラムのスクリーニングテストを作成した。スクリーニングに用い

る指標としてAQと行動特徴チェックリストから構成され、この2種のスクリーニングテストを適応支援施設において実施した。調査実施者は当該施設で勤務する教育相談員6名であり、調査対象者としては通所している児童生徒のなかから発達障害と診断されているものないし疑われるもの10名を選定して実施した。

(3) アセスメント方法を活用した教員研修の提案

自閉症スペクトラム指数および行動特徴チェックリストを用いて、学校内で児童生徒の発達のな問題を適切にアセスメントして指導に活かすための教員研修を実施し、それを学校内で実践する差異の問題点等について教員の意見を収集した。

研修会の実施

- ・千葉県A市教育委員会特別支援教育研修会(平成24年度)
- ・千葉県B市教育委員会特別支援教育研修会(平成25年度)
- ・千葉県C市小学校教員校内研修会(25年度)

研修内容

自閉症スペクトラムについての医学的臨床心理学的な特徴や診断基準について概説し、行動特徴チェックリストおよび自閉症スペクトラム指数(AQ)を用いた児童生徒の評価方法を、適応支援施設における実践を示しながら概説した。

4. 研究成果

(1) 大学生におけるアセスメントの有効性を確認するための質問紙調査

自閉症スペクトラム指数(AQ)の分布では、低得点群(0～14点)では男子24.6%、女子27.7%、平均点群(15～26点)では男子63.0%、女子61.0%、高得点群(27～50点)では男子12.4%、女子11.3%となっており、先行研究(若林2003他)とほぼ一致した結果となっている。またここでは明確な性差はみられなかった。

表1、2には男女別にAQとその関連要因との間で相関分析を行った結果を示したものである。AQとその関連要因との間には多くの正相関がみられ、特に「抑うつ」、「不安」および「解離症状」等との間に比較的高い相関が示され、発達障害の二次障害が出現している可能性がうかがわれ、青年期のメンタルヘルスや修学就労支援を考えていくうえで看過できない重要な結果が得られたと考えられる。

表1. AQと健康感および精神症状との関連～男性～

| | AQ | 社会的スキル | 注意の切り替え | 細部への注意 | コミュニケーション | 想像力 |
|----------|--------|--------|---------|--------|-----------|-------|
| 主観的健康感 | .265** | .265** | .156* | .155* | .307** | -.075 |
| 一般的疾患傾向 | .178** | .202** | .052 | .061 | .259** | -.077 |
| 身体的症状 | .158* | .119 | .063 | .096 | .200** | -.027 |
| 睡眠障害 | .065 | .112 | -.013 | .061 | .110 | -.122 |
| 社会的活動障害 | .168* | .148* | .125 | .053 | .167** | .096 |
| 不安と気分変調 | .255** | .154* | .210** | .187** | .254** | -.064 |
| 希死念慮うつ傾向 | .143* | .132* | .138* | .074 | .130* | -.008 |
| 抑うつ | .353** | .354** | .207** | .025 | .390** | .056 |
| 強迫性格 | .381** | .201** | .377** | .147* | .377** | .084 |

表2. AQと健康感および精神症状との関連～女性～

| | AQ | 社会的スキル | 注意の切り替え | 細部への注意 | コミュニケーション | 想像力 |
|----------|--------|--------|---------|--------|-----------|--------|
| 主観的健康感 | .288** | .273** | .174* | .150 | .252** | .066 |
| 一般的疾患傾向 | .160 | .150 | .118 | .061 | .102 | .069 |
| 身体的症状 | .070 | .056 | .036 | .114 | .045 | -.022 |
| 睡眠障害 | .067 | .096 | .077 | .090 | .063 | -.064 |
| 社会的活動障害 | .302** | .289** | .155 | .085 | .240** | .130 |
| 不安と気分変調 | .280** | .186* | .207* | .172* | .293** | .052 |
| 希死念慮うつ傾向 | .228** | .190* | .021 | .126 | .228** | .142 |
| 抑うつ | .543** | .403** | .330** | .224** | .429** | .311** |
| 強迫性格 | .353** | .274** | .393** | .049 | .344** | .167* |

(*:P<0.05)(**:P<0.01)

(2) 市教育委員会が運営する適応支援施設における児童生徒のアセスメントの実践

表3は児童生徒の基本属性、表4は行動特徴チェックリスト、表5はAQの各児童生徒の得点を示したものである。生徒Eは行動特徴チェックリストでは、多くの項目で1.0以上の得点を示し、AQでは中程度の得点を示している。それとは逆に児童F・生徒Gは行動特徴チェックリストでは、1.0以下の得点を示しているが、AQでは高い得点を示していることから、行動特徴チェックリストとAQによる結果は必ずしも一致していない。また、自閉症スペクトラム障害を想定する目安として、AQでは養育者評定で20点以上であることがカットオフポイントとして設定されており、本研究において該当するものは3名であった。しかしながら、本研究では教育相談員による他者評定であることを踏まえ、20点に達していなくても、その得点の周辺であった場合はアセスメントをする際に配慮をする必要がある。これらのことから、アセスメントを実施する際に自閉症スペクトラム指数の得点だけでなく、対象の児童生徒の発達の問題を捉えるのではなく、2種類のスクリーニングを併用して用いることが児童生徒の適切な状態把握に有用であろうと考えられる。

表3. 対象者の基本属性

| | 性別 | 学年 | 出席回数 | ASD診断 1 | ADHD診断 1 |
|---|----|----|------|------------|-------------|
| A | 女性 | 中2 | 10 | | |
| B | 男性 | 中2 | 10 | | |
| C | 男性 | 中2 | 10 | | |
| D | 男性 | 中2 | 10 | | |
| E | 男性 | 中3 | 9 | | |
| F | 男性 | 小5 | 4 | | |
| G | 男性 | 中3 | 3 | | |
| H | 男性 | 小5 | 2 | | |
| I | 男性 | 小5 | 1 | | |
| J | 女性 | 中2 | 1 | | |

1.ASD,ADHD診断の欄に記載されている「」、「」は、それぞれ「」は診断されているもの、「」は診断を受けていないがやしいもの。

表4. 行動特徴チェックリストの平均値と標準偏差

| | 反抗的 態度 | ルールの 遵守 | 協調 行動 | 始発性 記憶 | 注意 記憶 | 整理 整頓 | 微細 運動 | 持続性 | 見通し | モニタ リング | 社会的 学習の 欠如 | 注意の 欠如 | 自己 制御 |
|------|-----------|------------|----------|-----------|----------|----------|----------|------|------|------------|------------------|-----------|----------|
| A | 0.16 | 0.39 | 0.49 | 0.30 | 0.04 | 0.25 | 0.48 | 0.60 | 0.59 | 0.17 | 1.34 | 0.77 | 1.36 |
| B | 0.13 | 1.47 | 0.60 | 0.50 | 0.13 | 0.09 | 0.57 | 1.10 | 0.47 | 0.15 | 2.69 | 0.79 | 1.73 |
| C | 1.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 1.00 | 0.00 | 0.00 |
| D | 0.91 | 0.16 | 0.41 | 0.34 | 0.00 | 0.00 | 0.16 | 0.39 | 0.50 | 0.08 | 1.82 | 0.16 | 0.97 |
| E | 1.86 | 1.06 | 1.00 | 0.78 | 0.29 | 0.30 | 0.83 | 1.81 | 0.82 | 0.69 | 4.70 | 1.42 | 3.32 |
| F | 0.00 | 0.00 | 0.21 | 0.08 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.06 | 0.25 | 0.00 | 0.29 | 0.00 | 0.31 |
| G | 0.55 | 0.17 | 0.77 | 0.30 | 0.20 | 0.00 | 0.00 | 0.43 | 0.45 | 0.13 | 1.78 | 0.20 | 1.02 |
| H | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.33 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.33 |
| I | 0.42 | 0.70 | 0.40 | 0.24 | 0.05 | 0.05 | 0.06 | 0.20 | 0.30 | 0.00 | 1.75 | 0.16 | 0.50 |
| J | 1.08 | 0.20 | 0.75 | 0.70 | 0.00 | 0.00 | 0.33 | 1.10 | 0.40 | 0.90 | 2.73 | 0.33 | 2.40 |
| 平均値 | 0.61 | 0.42 | 0.46 | 0.32 | 0.07 | 0.07 | 0.24 | 0.57 | 0.41 | 0.21 | 1.81 | 0.38 | 1.19 |
| 標準偏差 | 0.57 | 0.48 | 0.31 | 0.26 | 0.10 | 0.11 | 0.28 | 0.57 | 0.21 | 0.30 | 1.28 | 0.44 | 0.99 |

1. 社会的学習の欠如は「反抗的態度、ルールの遵守、協調的行動、注意の欠如は「始発性、注意記憶、整理整頓、自己制御は「微細運動、持続性、見通し、モニタリング」のそれぞれ合計である。

表5. 自閉症スペクトラム指数の平均値と標準偏差

| | 社会的スキル | 注意の切り替え | 細部への注意 | コミュニケーションの欠如 | 想像力 | AQ50 | AQ16 |
|------|--------|---------|--------|--------------|------|-------|-------|
| A | 4.83 | 4.00 | 2.75 | 3.08 | 3.67 | 18.33 | 4.92 |
| B | 3.17 | 3.25 | 2.00 | 2.92 | 3.67 | 15.00 | 4.58 |
| C | 5.00 | 3.50 | 2.83 | 4.17 | 3.33 | 18.83 | 6.33 |
| D | 4.58 | 2.58 | 2.42 | 3.17 | 2.50 | 15.25 | 6.17 |
| E | 4.65 | 6.35 | 4.47 | 2.98 | 4.33 | 22.78 | 6.58 |
| F | 7.83 | 6.00 | 5.50 | 4.67 | 5.33 | 29.33 | 9.33 |
| G | 8.92 | 7.75 | 5.75 | 7.67 | 6.00 | 36.08 | 12.67 |
| H | 5.67 | 2.00 | 1.50 | 2.33 | 2.33 | 13.83 | 5.67 |
| I | 4.90 | 2.67 | 4.00 | 3.03 | 3.00 | 17.60 | 3.95 |
| J | 5.83 | 2.67 | 0.00 | 5.83 | 3.50 | 19.17 | 8.33 |
| 平均値 | 5.54 | 4.08 | 3.12 | 3.99 | 3.77 | 20.62 | 6.85 |
| 標準偏差 | 1.59 | 1.84 | 1.72 | 1.57 | 1.11 | 6.68 | 2.48 |

(3) アセスメント方法を活用した教員研修の提案

本研究で提出したアセスメント方法を教員研修で実践し、教員からの意見や質問を収集した。その骨子を示すと以下のようなものである。

AQの実施においては項目数も多く、家庭における状況も確認しなければ教員による評価が難しい

自閉症スペクトラムの特にグレーゾーン

とみられる児童生徒への現実的な対応の難しさ

学校内での教員間でのコンセンサスの取り方や校内体制をどのように整備すればよいか等の意見や質問が寄せられた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

田中純夫、千葉教育 No.595、11月号 P32-33、軽度発達障害の種類と見立て方～自閉症スペクトラムを中心に～、2010

田中純夫、千葉教育 No.598、12月号 P32-33、軽度発達障害に対するカウンセリングの進め方、2010

田中純夫、歯科医療と精神医療 11月号 P3-4、発達障害の見立て方、2011、査読無

田中純夫、精神保健の課題と支援 中央法規 P115-116、教師のサポートを主眼と学校支援システム、2012

[学会発表](計6件)

田中純夫、日本心理臨床学会 第31回大会論文集 P689、大学生における自閉症スペクトラムに関連する心理特性～自閉症スペクトラム指数(AQ)からみた大学生の健康観と諸症状～、2011

田中純夫・西田敬志、犯罪心理学会 第50回大会研究発表論文集 P92-93、青年期の関係性攻撃の検討～関係性攻撃と心理特性・精神的健康状態および学生生活における適応との関連～、2011

田中純夫・西田敬志・木村翔・佐渡幹也・王岳、日本教育心理学 第54回総会発表論文集 P630、大学生における自閉症スペクトラムとライフイベント経験との関連、2011

西田敬志、田中純夫、日本教育心理学会 第54回総会 発表論文集 P629、大学生における自閉症スペクトラムとアパシー傾向との関連、2011

西田敬志・木村翔・田中純夫・北村薫、日本スポーツ社会学会 第22回大会抄録集 P56-57、教育相談職員による児童生徒の軽度発達障害の2段階スクリーニング法の検討～「運動、スポーツ、遊び」の参加状況との関連からの検討～、2012

田中純夫・西田敬志、日本教育心理学会 第55回総会発表論文集 P555、大学生における自閉症スペクトラムとレジリエンスとの関連、2013

[図書](計0件)

[産業財産権]

○出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

田中 純夫 (TANAKA SUMIO)

順天堂大学・スポーツ健康科学部・健康学
科・准教授

研究者番号: 90286170

(2)研究分担者

()

研究者番号:

(3)連携研究者

()

研究者番号: